



親の会だより  
第64号 平成21年11月

発行  
東大阪市手をつなぐ親の会  
(年 3回)

(題字吉岡顧問)

## 成年後見支援センター設立に向けての中間報告

プロジェクト委員 黒崎 陸子(東福六万寺保護者)

地域規模での環境変化、景気の動向など大きく変わる中で、障害者福祉も契約の時代へと大きな変革をしまいいり、2006年国連で障害者権利条約が採択されました。

権利条約の意義は、“私達抜きに私達のことは決めてはならない”20歳になれば、人格を持った一人の人間として、地域でその人らしく生きられるよう一人ひとりを大切に作る社会をすることです。

東大阪市手をつなぐ親の会が運動母体として、先輩の方々の熱い想いで立ち上げていただいた「法人 青山会」では、地域で一人ひとりが安心して生活出来る事業を展開していただいております。

2、3年来の課題であった成年後見制度を活用して行こうという取り組みも、今年の総会でご出席いただいた東大阪市長 野田様、市議会議長 浅野様から応援するという力強いメッセージをいただきました。

法人 青山会では利益相反となる為、新たにNPOを立ち上げ法人格を取得しなければなりません。その為のプロジェクトチーム(各保護者会より2名と坂本会長)で7月より11月まで5回の会議を重ねてまいりました。

4回目からオブザーバーとして、ご出席ご協力いただいている社会福祉士 橋本 要様(元 副支部長)から、12月18日の布施福祉作業所の保護者会を皮切りに各保護者会で、制度が何故できたのか、どうして必要なのかを講演していただくことになっています。

皆様に、必要性を認識していただく為に、ワークショップ(家族支援)も開催しました。参加することで、親が障害を持った子供と身体的、精神的に距離を見直し、自分の人生と障害を持った子や他の子供の人生も含めた一括した将来のプランを立てることによって、次の一歩が踏み出せるようになり、後見制度の活用につながると全日本育成会が厚労省の補助金を得て、実施されたプロジェクトです。

参加の皆様から大好評でした。

是非、月例会にご出席いただき、橋本様には質疑応答の時間を充分とっていただいておりますので、活発な意見をいただきたいと思います。事業をしていく上での指針にもなると思いますのでよろしくお願い致します。

愛する子供の為、家族の為大きな夢と希望を持って、よりよい地域生活の支援の道筋となる様、一丸となって頑張りたいと思っています。

## 各保護者会、家族会の最近の様子を紹介します



### 東大阪市福祉作業所

東福保護者会の保護者室の様子を紹介します。

月、二日の手伝い日があります。利用者さんの急ぎの仕事があればそれを手伝い、又、毎日のように古着が入ってきます。それを整理し、売り物とボロに分けます。又、ミシンの部屋では、縫製品を作っています。そんな時、ミシンをかけるだけの部屋ではもったいないと.. 保護者が誰でもいつでも気軽に入り休憩し、お茶を飲みお菓子の一つもつまみお喋りしてはどうかと保護者室になりました。

ミシンがけの苦手な人はスナップつけ、裁断、袋入れ、ひも通し、花造り等色々手伝ってもらっています。今では、お昼のお弁当持参で話はずみ、夕食の献立までヒントをもらって帰宅するようになりました。50代～70代までのお母さん達は、言い間違いや聞き間違いが多く、ロレツがまわらず漫才になったりで大笑いします。

ある人は、古着の気に入ったのをすぐ自分でアレンジし、ミシンでさっと直し、次の日には「これ、どう?」と着てきて、ファッションショーになります。

外国に送りたいと和風のおじやみや巾着の注文が来て、皆で得意とする所を受け持ち素敵な商品ができました。

フリーマーケットの準備や後片付けの後の保護者室は満員で座る所もない位です。

若いお母さん、年輩のお母さんお互いにいい所を吸収し合って、笑顔の耐えない保護者会であり保護者室でありますように。

玄関横の古着ショップ「もったいな屋」も宜しくお願ひします。

(浅奥)



### 第二東福

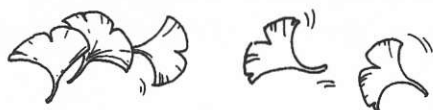
私は、第二東福に通所している上田健司の妹です。

今回、大学の課題で、第二東福の様子を取材させていただきました。大学の課題というのは(くらしの観察をとおして生活文化をみる—「残していきたい、伝えていきたい」生活文化財を調査し、地域雑誌の具体的な企画を試みる—という)ものです。私は、この課題で、知的障害を抱えた人々の生活の様子を(伝えるべき生活のあり方)として、今回のテーマに設定しました。

特集記事の制作計画にあたり、私は最初にこのように考えました。

ノーマライゼーションの考えが広まりつつある今日でも、現在の社会環境から実現に至っていないのが現状です。それは、助け合いの意識以前に、世間一般へ知的障害者の理解や福祉に対する認知が低いためではないでしょうか。社会のあらゆる壁を取り除いて、環境を改善するためには、まず、世間への認知を促すことが第一課題となります。そういった考えのもとで、今回の取材を計画しました。取材では、利用者さんの仕事の様子を拝見させていただいたり、月例会にも参加させていただきました。また、職員さんにも多くの話を伺い、様々な情報から(障害を抱えた人の暮らし)をみつめることができました。私自身も、知らないことがあり、多くのことを考えるきっかけになりました。忙しい中で、快く取材を承諾していただき、利用者さん、職員さん、保護者の皆様には、大変お世話になりました。ありがとうございました。

(上田 寛子)



## 東福六万寺

初夏6月12日、吉岡荘太郎様（全国土木建築健康組合専務理事）から刷り上がったばかりの“東京の空 虹を待つ”（自費出版）をご恵贈いただきました。

後日、読者の皆様に広く呼びかけられ暖かなご趣旨に賛同いただいた多くの皆様（青山会職員親睦会、各保護者会他）からご寄附を賜り、東福六万寺の利用者の為に使用させていただくことになりました。

秋10月30日、吉岡様をお迎えして玄関ホール前に、記念植樹（山ぼうし）と感謝状の贈呈式がありました。

プレートには“秋風に千の声きく山の僧”と吉岡様の句が記されて居ります。

来春に、帽子に似た白い可愛い花が咲くのが待たれます。

きっと、我が子のことを気かけながら亡くなられた先輩の親ごさん達が、木の頂から六万寺の皆を見守って下さっているでしょう。

吉岡様、ご協力いただきました皆様ありがとうございました。

（黒崎）



## 布施福祉作業所

布施福祉作業所では、自主製品作りに靴下の端切れを取り寄せて、エコスリッパや座布団を編んでいます。

今回、靴下リサイクル作品の募集が有り、それに応募する事になり、利用者保護者で色々工夫して、花のストラップやマグネット、髪留めゴム、クルクルストラップにビーズを縫い付けて4点出品したところ・・・なんと！特別賞をいただきました。作品展示会には、保護者7名で見学に行きましたが、リサイクル品でこんなすごい物ができあがるかと感心しました。

（川本）

## 第二布施福祉作業所

11月7、8日に第二布施福祉作業所の在る地域に於いて、長堂地区公民分館文化祭が開催され、作業所の利用者も「ティシューアート」の作品を出品展示として参加させて貰いました。

この地区は自治会活動が盛んで、数年前に公民分館の運営委員さんから「何かで参加すれば！」とお声を掛けて下さり、作品展示をさせてもらっています。

今年の作品「ティシューアート」とはティシューを四つ折りにし、色々なマジックでトントンと模様をつけてからティシューを捻げると、四面に左右対象、上下対象の柄ができます。幾何学模様やモノトーン有り、個性豊かな作品の出来上りです。

この2、3年、とても忙しい坂本会長に無理をお願いして、「文化祭に出品する利用者さんが一日で手作り出来るもの」と課題を出します。にも拘わらず快諾下さって、あれこれ策を練ってアンテナを張り巡らせて、さて今年は...！！

制作当日、工程自体は短時間に出来上がり続いてお披露目タイム！皆、力作揃いであれが綺麗、これが好き！と大盛り上がりでした。本当にあんな短時間にステキな作品が出来る事に驚きです。また宜しくお祈りしますと紙面をお借りて坂本会長にお願いします。

そして会員の皆さま、来年の秋の散歩道の寄り道に、文化祭での利用者の作品をご覧くださいませようお祈り致します

（瓜生）

## 「家族支援プロジェクトのワークショップ」に参加して

学齢期部会 森川 都世子

ワークショップ..... 何をするのかも全くわからないままの参加でした。

座席も知り合い同士でかたまることがないようにと、ランダムに分けられた席が決まっています、学齢期に入ってまだ2年目の私にとっては、先輩お母さん方の中に座っているだけで緊張しました。

それでもポツンと座っている私に、話しかけていただいたり、プログラムも進行し、「なりきり他己紹介」も隣に座られたお母さんとペアを組みお互いの子供の事など、色々な話をしているうちに自然に私の緊張もほぐれてきました。

そして、年代の違うお母さん方のお話を聞いて、今の私たちは以前に比べてとても恵まれた環境にあるなどという事がわかりました。それは、これまで頑張ってきたお母さん方の“想い”や“願い”のおかげであるという事に、感謝の気持ちで一杯になりました。今回、この勉強会に参加して、これまでは子供中心の生活で自分自身の気持ちや人生を真剣に考えてこなかった事に気がきました。

今後は、自分のためにも子供のためにも、そして家族のためにも、きちんと自分自身を見つめ直し、障がいのある子どもがいても、私らしく生きていきたいと思えます。結果、それは、子供も含め周りの人の幸せにつながるのではないかなあと感じました。

## 土曜レク

今年度は、東大阪市福祉作業所保護者会が土曜レク担当。

みんなが楽しめるレクレーションをと思いながら、いろいろ企画してきました。

11月3日、開催した「みかん狩り」は毎年行っている好評な行事で(去年は雨天のため中止となりました)今年は、ハッピークラブ主催の「ガイドヘルパー養成講座」の実習生5名も加わり、総勢41名で行ってきました。

前日の寒さとはちがい、風もなく暖かい屋外活動には打ってつけの日でした。

『浅野みかん園』は障がいのある人達にも理解があり(我が息子が小学生の時から、行かせていただいている所)この木のみかんがおいしいと言いながら、取って食べたり、おみやげ袋に入れたり.....。そして、落ち着くと、昼食。手作り弁当あり、コンビニ弁当あり、他の人のお弁当をもらったり、あげたり楽しい時間が過ぎました。

11月21日は、テレビでも宣伝していた、JR尼崎にオープンした「COCOE」へ行ってきました。15時すぎの出発。20時すぎの帰宅と遅い時間からの催し物だったせいか、参加者が少なく又、人出も多く、せつかくの夕食も分かれて取るということになり、反省する点もありました。

今後の予定として

- 12月12日(土) もちつき
- 29日(火) 番外編 能勢温泉
- 1月16日(土) カラオケ
- 2月20日(土) 身体をつかって遊ぼう
- 3月13日(土) なばなの里

を企画しています。人数制限のある催し物もありますので、『お知らせ』を注意して見てください。  
多数の参加お待ちしております。

当会への寄附金

大橋 敏子様 5,000円

ありがとうございます。

